

岡崎市市民意識調査結果を用いた生活環境要因に対する住民意識の経年変化分析

名城大学大学院 学生員 古井 良典
 名城大学 正会員 松本 幸正

1. はじめに

近年、多くの自治体において、住民を対象としたまちづくりに関する市民意識調査を行っている。多様化する住民のニーズを的確に把握し、まちづくりに反映させるために、行政と住民が一体となる必要がある。そこで、本研究では、住民意識をまちづくりに反映させることを目的とし、暮らしやすさへの影響度、住民の満足度の高い項目、低い項目を経年的な変化を分析すると共に、その原因についても考察する。

2. 岡崎市市民意識調査結果の分析方法

岡崎市は、平成14年と平成18年に市民意識調査を実施している。主な調査内容としては、岡崎市の住みやすさや周囲の生活環境に対するものがある。本研究では、この岡崎市市民意識調査の結果を用いて分析を行った。

まず、市民意識調査における岡崎市の「住みよいまちですか？」に対する評価を外的基準に、表1に示す15の生活環境要因に対する評価を説明変数とし、数量化理論 類により分析を行った。その結果から、満足度、影響度、ニーズ充足度、改善必要度¹⁾、を算出した。ここで、影響度とは、暮らしやすさの評価に与える影響の大きさを表す指標のことである。影響度が高いということは、その生活環境要因の評価と、暮らしやすさに対する評価に強い関連があることを表している。ニーズ充足度、改善必要度は暮らしやすさの評価に与える影響と、住民の満足度を同時に定量化した指標である。ニーズ充足度の高い項目は、暮らしやすさの評価に与える影響が大きく、かつ住民の満足度も高いということを示す。改善必要度が高い項目は、暮らしやすさの評価に与える影響は大きいものの、住民の満足度は低いということを表している。

3. 岡崎市における経年変化の分析

図1に示す本庁地区、岡崎地区、大平地区、東部

表1 生活環境要因

	項目名	略記
1	区画整理などによる街並みの整備	街並
2	公共交通の充実	交通
3	幹線道路の整備	道路
4	情報通信網の充実	情報
5	地震や風水害などの防災対策	防災
6	病院の数、休日・夜間医療体制	病院
7	消防体制・救急医療体制	救急
8	子育てに対する支援	子育て
9	大気汚染・騒音などの公害対策	公害
10	ごみ処理やリサイクル等の環境対策	ごみ
11	池、川、山林などの自然環境の保全	自然
12	公園・緑地や街路樹の整備	公園
13	コミュニティなどの地域活動の支援	地域
14	文化活動の場と機会の充実	文化
15	学校施設や教育課程の充実	教育



図1 岡崎市の地区区分

地区、岩津地区、矢作地区、六ッ美地区の地区別に集計し、平成14年と平成18年における満足度、影響度を算出した。地区別の意識の違いを把握するために、岡崎地区の満足度、影響度経年変化を図2に、

キーワード 生活環境要因、満足度、ニーズ充足度、経年変化、岡崎市、市民意識調査

連絡先 〒468-8502 名古屋市中区天白区塩釜口1丁目501番地 名城大学理工学部建設システム工学科 TEL 052-832-1151

岩津地区を図3に示す。どちらの地区においても平成14年に比べ、平成18年は影響度が減少している要因が多くあることがわかる。

図2, 図3では満足度と影響度を同時に考慮できていないため、次に平成14年と平成18年におけるニーズ充足度, 改善必要度を算出する。ここで改善必要度は、ニーズ充足状態と改善必要状態の差異を明確にするために負の値とした。一例として、岡崎地区のニーズ充足度, 改善必要度の経年変化を図4に、岩津地区を図5に示す。棒グラフは平成18年のニーズ充足度, 改善必要度と平成14年の値との差を正負で経年的に表したものである。平成14年の評価と比べ平成18年の評価が悪くなっている要因より良くなっている要因が多くあることがわかる。他の地域においても同様のことが言えた。

各地区の比較を行う「ごみ」について着目すると、両地区において、満足度, 影響度共に増加していることが図からわかる。ニーズ充足度, 改善必要度についても、増加していることがわかる。岡崎市では、平成15年度に発火性危険ごみの回収, 資源回収, 事業系廃棄物古紙等の搬入規制, 資源有効利用促進法に基づき家庭系パソコンの回収リサイクルを開始した。平成18年1月には額田町との合併に伴い、ごみの出し方が変更になった。このことから、ごみに関する施策を行ったことと住民の生活環境要因の評価に関係性があることがわかる。また、他の要因についても市の施策等との関連が認められた。

4. おわりに

本研究では、岡崎市における市民意識調査の結果を用いて、満足度, 影響度, ニーズ充足度, 改善必要度を算出し、経年的な変化から、生活環境要因の分析を行った。その結果、地区ごとの住民意識に経年的な変化の違いがあることが明らかとなった。また、平成14年から平成18年の間に行政が行った施策は、住民の生活環境要因に対する評価に影響を与えている可能性があることがわかった。

なお、本研究の遂行にあたり、岡崎市にデータを提供していただいた。ここに記して謝意を表します。

<参考文献>

- 1) 松本幸正, 伊東裕晃, 松井寛: 豊田市における市民意識調査を用いた生活環境に対する住民意識と改善要因の定量的分析, 第38回日本都市計画学会学術研究論文集, pp.73-78, 2003.

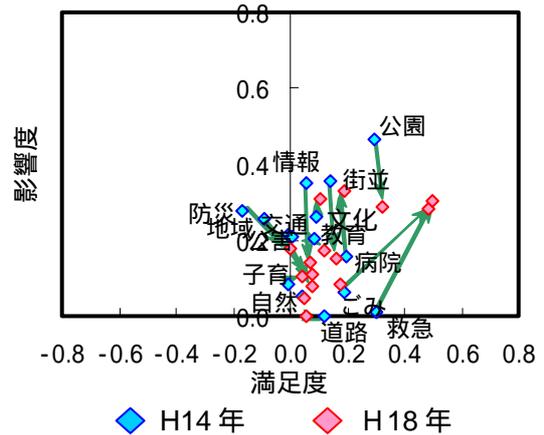


図2 岡崎地区における満足度 影響度経年変化

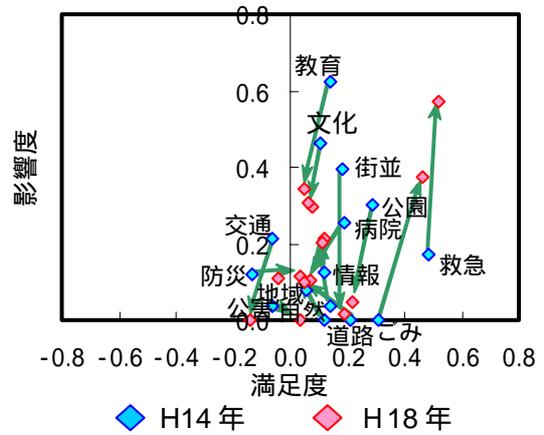


図3 岩津地区における満足度 影響度経年変化

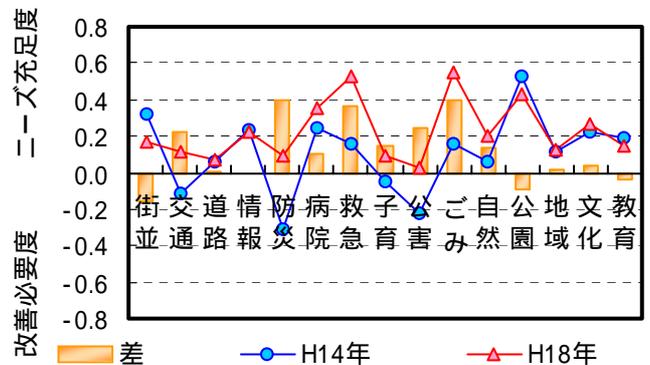


図4 岡崎地区におけるニーズ充足度, 改善必要度経年変化

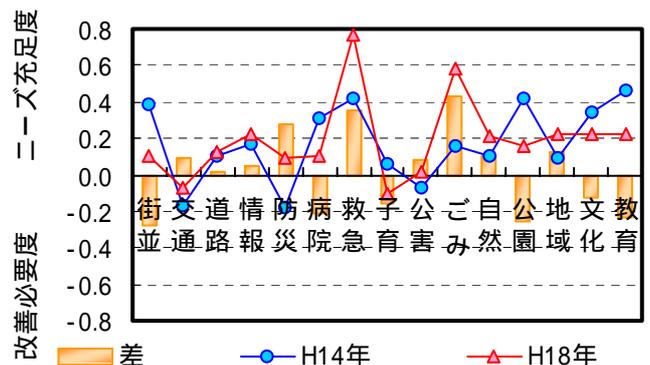


図5 岩津地区におけるニーズ充足度, 改善必要度経年変化